平成27年度

福祉だより

海蔵地区社会福祉協議会　福祉部
海蔵地区民生児童委員協議会

平成27年度も早や終了を目前として福祉だよりを発行させていただきました。
海蔵地区社協の方々と話し合い、年度の終わりを無事むかえられた事をお礼申し上げます。
保育園児・幼稚園児と高齢者の交流会、地区内の住民を対象にした福祉体験教室、福祉講演会等開催でき、多少なりとも地域福祉に貢献できていれば幸いと考えています。
このようなことを積み重ね、次年度からも更なる地域の皆様のご協力、ご意見を賜ることができれば地域福祉の充実につながるのではと考えます。
また今年度は新たにまちづくり委員会との関連も出てきて、今後の変化を求められるのかもしれません。いづれにいたしましても、今まで通りよろしくお願い致します。　　部長

平成２７年度の年間行事予定を下記の様に取組み、実施致しました。

平成27年7月3日	海蔵保育園児と高齢者との交流会
平成27年9月26日	山手中学校生徒を交えて福祉体験教室
平成27年10月13日	海蔵幼稚園児と高齢者との交流会
平成27年11月1日	海蔵地区文化祭　福祉招待席
平成27年12月12日	福祉講演会（失語症について体験談と理解）
平成28年３月下旬	福祉だより発行

※　福祉体験教室と福祉講演会は素人撮影ですがビデオ撮りしました。
ご視聴していただく方は福祉部迄ご連絡下さい。

海蔵保育園交流会
「きれいな作品ができました」

福祉講演会「失語症について」
「大勢の方々ご参加ありがとうございました」

海蔵保育園児と高齢者の交流会

海蔵保育園保護者会代表

平成27年7月3日海蔵保育園にて高齢者と保育園児との交流会が開催されました。

まず、園児が歌を披露し、一生懸命歌う姿に会場は手拍子と笑顔に包まれました。

その後、各グループに分かれ、竹製ペン立ての絵付けと折り紙の提灯作りを行いました。

竹は一つ一つ大きさが違っていて、世界にたった一つしかない素敵なペン立てが完成しました。

「おばあちゃんの絵、上手だね！」「ボクの絵、素敵だね。」そんな声が飛び交っていました。

ぎこちなかった会話も最後の給食会の頃にはすっかり打ち解けて、お別れを惜しむ姿も見られました。

私達役員も本当に楽しく参加させていただきました。ありがとうございました。

作品づくりのお話、良く聞いていますね

きれいに竹筒に絵が描けました

山手中学校生徒を交えて福祉体験教室

『認知症サポーター研修及び体験教室　』

海蔵小学校ＰＴＡ代表

平成27年9月26日山手中学校生徒のみなさんと地域の方々で認知症サポーター研修が行われました。山手中学校より１７名、地域住民の方２０名、全員３７名で開催されました。

「気づき」をテーマに、認知症に関するＤＶＤ・基礎知識・認知症の方との接し方を学び体験でじゃんけんゲーム①あいこでポン②あっち向いてホイを楽しみ、最後に目隠しハイク（2人組になり1人目隠しして、相手の人が声かけしながら誘導、センター2階から1階まで下り又2階まで上がる）を体験しました。

とても有意義な楽しい研修で参加者全員に認知症のサポーターである証の「オレンジリング」を頂きました。

海蔵幼稚園児と高齢者との交流会（カレーパーティー）

海蔵幼稚園ＰＴＡ代表

平成27年10月13日海蔵幼稚園にて園児と高齢者との交流会が行われました。幼稚園のホールでは、園児のダンスや歌の発表があり、一生懸命歌う姿に会場は拍手と笑顔でいっぱいになりました。その後、高齢者の方々から歌(七つの子・もみじ）を披露していただきました。

お昼には、福祉部員、民生委員の方々に大きなお鍋で作っていただいたカレーとデザートのバナナを皆でおいしくいただきました。おいしいカレーのおかわりを何度もしている園児がたくさんいました。また、園児から軍手のプレゼントがあり、すっかり打ち解けて会話も弾んでいました。和やかな雰囲気での交流会となり、私たち役員も楽しく参加させていただき、とても貴重な体験でした。ありがとうございました。

海蔵地区文化祭

海蔵民児協代表

平成27年度の地区文化祭が、11月1日に開催されました。福祉部・民児協では独居で参加された方に福祉券とお弁当を配布しました。午前中は体育館で子ども達の演技や演奏を楽しんで頂きました。又、展示作品を見て感動されたりバザーでお買い物をしたり、午後からは一般の方々による歌や踊りを堪能され楽しい一日を過ごしていただきました。

次回もお元気で参加して頂ける事を、願っています。

福 祉 講 演 会

「失語症について　体験談と理解」

福祉講演会『失語症について』　　海蔵地区自治会代表

平成27年12月12日海蔵地区市民センターで、ご自身の失語症体験談と、言語視聴覚士による失語症への理解について講演がありました。

脳梗塞などの後遺症で、判断力などは確かなのに、言語がスムーズに出てこない障害を失語症といいます。周囲が正しく障害を理解し、時間や気持ちに余裕を持って接すれば、ごく普通にコミュニケーションがはかれるのです。私たちの日常の会話でも、余裕を持って聞くことが出来れば、相手の人と、より良いコミュニケーションがはかれることを再認識するとともに、相互理解の大切さを知る有意義な講演会でした。

福祉講演会『「失語症について」体験談と理解』に参加して

海蔵地区婦人会代表

言葉の意味、考える事やそのスピード、気持ちは病気にかかる以前と何ら変わることはなく、ただ言葉にする事、表現することが上手くできない・・それが失語症。うまく表現出来ない、言葉を教えてあげればいいのでは？言い間違えは訂正すればよいのでは？言語訓練をすればどう？・・・と思われがちだそうで、実際私も今講演会でお話を伺うまでは同様に考えていました。でもそうではなく、頭の中に思い描いている事柄を上手く引き出せるようにしてあげる事が重要なのだそうです。ゆっくり、はっきりとした言葉で、話題は一つづつ、ゆっくりと待って、表情と表現は一緒にして・・など。ほんの少し心がけるだけで、全然違うとの事。

「失語症」を患っている方一人ひとりその症状も異なるので相対する方に合わせる事が重要だそうです。今講演会に際し、現在も「失語症」に苦しみつつも受け入れ、前を向いて進んでいる体験者の方、言語聴覚士の方が実情を教えてくれました。「失語症」になってしまった事で、以前と同じようにコミュニケーションをとる事が出来ずどうしても人前に出る事が億劫になってしまう方が多いと・・。実際、「失語症」に限らず突然「病気」を患った方にたいしてどう対応して良いのか、考えてしまうことがたくさんあります。普通に話せるのかな？こんな事聞いていいのかな？など。この講演会で実体験者に話を聞いて解った事、それは普通に接すれば良いって事。ほんの少しの気遣いだけで、後はなんら変わらないこと。そうすることで病気を患っている方も、私たちも以前と何ら変わることなく楽しい時間が過ごせるってこと・・。

簡単な事だけどとても難しくて一番大切な事・・。

今回の講演会でお話を聞く機会を頂いて、本当に良かったです。ありがとうございました。

※　各行事の関連写真は「かいぞう地区」のホームページ社会福祉協議会福祉部でご覧下さい。